

葛	野
の	鐘

Kadono - no - Kane

vol.22
2015.APRIL

京都光華女子大学図書館報

館長からのメッセージ

わたしと図書館

トピックス

利用案内

わたしのすすめる1冊

わたしと図書館（卒業生）

「新入生にすすめる本」フェア

図書館カレンダー

654
€



館長からの
メッセージ



「図書館のトレンド」

「図書館総合展」という日本の図書館界最大の展示会があります。そこでどのようなフォーラムやポスターセッションが行われているかを見ると今の図書館のトレンドが見えてきます。2014年のテーマを調べてみると、①オープンGLAM (G:ギャラリー、L:図書館、A:アーカイブ、M:博物館)等、ウェブ、デジタル時代の図書館のあり方、②図書館とまちおこし、③(特に大学図書館での)アクティブ・ラーニングへの教職・学生共同の取組が重要なキーワードになっています。

もう一つ「Library of the Year」(LoY)という賞があります。ここ3年の大賞を見てみましょう。2012年は「ビブリオバトル」でした。これは「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチフレーズとした書評合戦で、広い意味のアクティブ・ラーニングの一つと言えます。本学でもいくつかの授業で取り上げられています。2013年は伊那市立図書館で、ICTを活用して地域と図書館を結びつけたという点が評価されました。2014年の大賞は京都府立総合博物館です。「東寺百合文書WEB」という価値の高い資料をデジタル化して公開するというオープンGLAMの好例という点で評価されています。LoYを見てもやはり、ウェブ・デジタルに対応した図書館、地域貢献、学生の主体的学びの活性化という点がキーワードになっているといえます。

翻って、これらのキーワードに関する本学の状況を見てみると、教職・学生共同の取組として「学生選書ツアー」やカフェ光庵とのコラボ企画、地域貢献として中学生の図書館職業体験などを実施しています。また、ウェブ・デジタル時代への対応として、「学術リポジトリ」を整備しており、さまざまな電子図書も増やしています。さらに、本学所蔵『雪梅芳譚犬の草紙』(本学図書館のホームページを飾っています)のアーカイブ化を学内に公開しています。

このようにさまざまな取組が進んでいますが、もちろんまだまだ十分とはいえません。今年度一年、大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供という図書館の基本機能を踏まえつつ、さらにさまざまな取組を進めていきたいと思っております。



図書館長 相場 浩和
短期大学部 ライフデザイン学科
(原子核理論)

寄贈図書リスト

現・旧教職員ほか(平成26年1月~12月受入 寄贈者の五十音順・敬称略)
この他にも学外の方から多数の図書を御寄贈いただきました。改めて御礼申し上げます

樋口一葉・泉鏡花集 ほか	柴田 周二
No David! ほか	木戸 美幸
やさしいおりがみ: オールカラー版 ほか	見正 富美子
天使のあしあと: 難病でわが子を亡くしたお母さんたちの手記 ほか	野村 幸子
論理学を学ぶ人のために ほか	徳田 仁子
中川ひろたかグラフィティ: 歌・子ども・絵本の25年 ほか	土谷 長子
組織の心理的側面: 組織コミットメントの探求 ほか	山本 嘉一郎
実記・百年の大阪 ほか	小笠原 慶彰
双頭の船 ほか	平塚 智美
自己認識への道 ほか	高木 英明
新生児学入門 第4版 ほか	西川 みゆき
和服ハンドブック ほか	阿部 久美子
心齋橋北詰(上) ほか	中嶋 哲生



わたしと図書館

平成26年11月16日、あかね祭(学園祭)にあわせて、本学所蔵の古典籍や歴史資料のミニ展覧会「古文書・古典籍展覧会」が行われた。長年にわたって収集してきた典籍や資料、近代の文豪の自筆原稿などを、ぜひ学内外の方々に見ていただきたい、という願いから実施した企画である。私は残念なことに、当日、別途の用件があり、会場にいたることができなかったのだが、後日、様子を聞くと、賢風館4階に設けた会場は、なかなか本格的なしつらえとなり、学外からの来場者も多かったという。中には、「こうした催しは来年もあるのですか」と尋ねた方もいたそうで、まことにありがたいことだと思う。

さて、当日、欠席した私が、なんでこの催しのことを持ち出したのか。それは、展覧会の準備をしながら、自分と古典籍、そして図書館という機関との関わりをあらためて見つめることになったからである。私の担当は、古典籍の解題の執筆で、鎌倉時代の古筆切『因幡切』(古今集)と『角倉切』(後撰集)、そして江戸時代の板本『伊勢物語』(元禄13(1700)年刊)であった。これらの典籍を購入したのは、本学に



朝比奈 英夫
キャリア形成学部 キャリア形成学科
(日本文学)

在籍した先生であったはずだが、まず敬意を表すべきは、購入時のカタログのコピーや関係書類をきちんと保管しておいた図書館の働きである。もし、これらの記録がなければ、きちんとした解題が書けたらどうか。自問するほどに心許ない思いが高まっていく。

専門分野が日本文学だからといって、専門家ではない来場者に向けて要を得た解説がすぐに書けるわけではない。相手が専門家ではないからこそ、展示品の解説は難しいのだ。そこで気づいたのは、自分と古典籍とは、それを適切な方法でつなぐ架け橋があってこそ意味ある関係を持つことができる、ということである。図書や情報を収集し利用する場であるとともに、典籍や資料が生き生きとした文化をわれわれに見せてくれる場、それが図書館なのだといえよう。



木戸 美幸
こども教育学部 こども教育学科
(英語児童文学)

表紙から本文まで、イラストを含むレイアウトが一致している場合がほとんどで、英語⇄日本語を比較する楽しみが味わえる。また、英語⇄日本語の訳に挑戦して、自分の英語力を試すこともできる。近年、第二言語習得分野で、絵本の「読み聞かせ」を利用した研究が進んでいるが、まさにこのようにして、英語力を身につけることが可能なものであり、世界中で低年齢化が進む英語の習得に、すでに絵本は大きな力を発揮しつつある。

これらの英語原書版絵本を使って、「児童英語」ゼミで学ぶ4回生は、光華小学校1年生に「読み聞かせ」を実施してきた。英語がわからなくても、イラストや、リズム感のある表現などのおかげで、これまで4年間、多くの1年生が「読み聞かせ」を楽しんでくれた。学生自身も、英語をこのように学べればよかった、とよく口にする。

平成27年度からは、こども教育学部が新設され、これらの絵本はさらに多くの学生に利用されるであろう。手作りリストに並んだ、英語原書版+日本語訳書版の多数のセットは、「京都光華女子大学図書館」のユニークな宝物であると自負しているので、ぜひ、一人でも多くのおみなさんに味わってもらい、将来、英語教育に利用できる人材に育っていただきたい。

図書館に入って1階の右手に、絵本コーナーがある。南側には和書、北側には主に洋書が並んでいる。そこに手作りの冊子が置いてあって、絵本のタイトルが、「英語原書版」「日本語訳書版」のどちらからでも調べやすいように、並べて記載されている。英語原書版『A Bear Called Sunday』(726.5/HAC)・日本語訳書版『クマの名前は日曜日』(726.5/HaA)、といった具合である。

これらは、2008年度以降、私が個人研究費や卒業生寄贈図書費などで英語の絵本を購入する際、日本語訳書版が出版されているものを、併せて購入することで揃ったものが多くを占める。図書館では、和書と洋書を混合に配架することができないので、苦肉の策として、図書館の方が、このような手作りのリストを用意してくださったのだ。

セットで揃っている英語原書版と日本語訳書版を手にとると、

京都光華女子大学所蔵

「古文書・古典籍」展覧会

平成26年11月16日(日)の大学祭2日目、「京都光華女子大学所蔵『古文書・古典籍』展覧会」が開催されました。

これまでも公開講座に合わせての展示はありましたが、より広く一般の方々に見ていただく機会としてはこの展覧会が初めてでした。しかも貴重書の数々が図書館から飛び出し、人文学部の拠点であるキャリア形成学科・文芸科コモンズを会場として展示されたのです。前日設営時にはにわか雨が降り担当をやりきさましたが、当日は大快晴でした。きっと準備に取り組んだスタッフ・教職員の想いが通じたのでしょう。

「NO LITERATURE, NO LIFE?」を合言葉にした今回の展覧会でしたが、人文学、文学や歴史に興味をもたれる方々に多数来ていただくことができました。生の史資料を間近に見ることができる機会はそう滅多にありません。先生方や、お手伝いの現役学生、卒業生の丁寧な解説を聞きながら、みなさん熱心に鑑賞されていました。企画段階から熱い想いがたくさんあった展覧会。ご来場いただきましたみなさま、本当にありがとうございました!!

今回の展覧会で展示された史資料のなかから「角倉切」等いくつかを、この展覧会の準備を進められてきた肥留川先生に紹介していただきます。企画から当日までの様子も合わせてご寄稿いただきました。またこの「角倉切」と「嵯峨本」に関しては、肥留川先生の紹介文が本学紀要誌上でも公開されています。

展示会当日までと展示した貴重書一部紹介

近年、諸所の絵巻や襖絵といった貴重な文化財の修復が成ってあらためてそれらが公開され、話題になっています。近くは昨秋京都国立博物館で開催された「鳥獣人物戯画」全四巻の修復完了を記念しての展覧会などもその一つで、連日観覧者が入館まで長蛇の列を作る盛況だったようです。

その昨秋、本学でもかねて専門の工房に修補を依頼していた「伊達政宗書状」の、その修補が完成してきました。そこでこの機に、これまで文学部日本語日本文学科や、大学院文学研究科で購入し、図書館に所蔵されてきた古文書や貴重書を展示、公開してはどうか、という案が浮上しました。

学内外の方に見ていただくには学園祭に合わせての開催が最適であろう、ということで期日も決まり、「角倉切」や嵯峨本の謡曲『山姥』『盛久』等の古典籍、近世の合巻『雪梅芳譚犬の草紙』(改装全二十五冊)、さらに近代の谷崎潤一郎自筆書簡、夏目漱石の自筆メモ(創作に関わるものか)といった文学資料、および修復成った「伊達政宗書状」や「豊臣秀吉朱印状」などの歴史分野の史料まで、本学所蔵の貴重書類を関連史資料とともに展示するというこの企画が実現しました。

そこに展示されたうちのひとつである「角倉切」について、簡単に紹介します。内容は、『古今集』に続く第二勅撰和歌集である『後撰集』で、元は冊子の形でしたが、江戸時代のある時期に裁断され断簡があちこちに散在することになりました。本学に所蔵されるのはそのうちの一片です。筆写されたのは鎌倉時代で、筆写者は『十六夜日記』の著者である阿仏尼だとの伝承もあります。

また、元は江戸時代初期の豪商角倉素庵に愛蔵されていたので、断簡となつてからもこの名で呼ばれることになったようであり、本学貴重書としても筆頭に掲げてよいものと思われれます。



「角倉切」後撰集(阿仏尼筆)

ひるかわ よしこ
肥留川 嘉子 (キャリア形成学部 キャリア形成学科教授)

光華のお宝
お見せします!!



利用案内

京都光華女子大学図書館

開館時間

平日 9:00~20:00

土曜日 9:00~16:00

* 休暇中は開館時間を変更することがあります。

* 詳細は開館予定表をみてください。

(図書館ホームページをご覧ください)

休館日

- ・日曜日・祝日
- ・学園の休業日
- ・年末年始
- ・その他、特別行事の日など

図書館利用証

学生	…学生証
教職員	…教職員証
非常勤講師	…出講証
上記以外の方	…図書館利用証(図書館発行)

* 利用証は、入館時や館内資料の利用時に必要ですので必ず携帯してください。

貸出冊数・期間

	貸出種別	期間	冊数
学 生	一般貸出	2週間	10冊
	卒論貸出	4週間	
	実習貸出	4週間	
院 生	一般貸出	4週間	20冊
専任教職員	一般貸出	13週間	30冊
非常勤講師	一般貸出	6週間	15冊
卒業生	一般貸出	2週間	5冊
社会人	一般貸出	2週間	3冊

- 貸出には学生証などの図書館利用証が必要です。
- 休暇中の貸出についてはその都度ご案内いたします。
- 🚩 貸出延長
予約がない場合は、マイライブラリまたはカウンターで手続きができます。返却期限日までに手続きをしてください。(延長は1回限りです)
- 🚩 予約
貸出中の資料は予約ができます。マイライブラリまたはカウンターで手続きができます。
- 🚩 返却
返却時には利用証は不要です。
返却期限日は「返却期限票」で確かめてください。
閉館時は返却ポストに入れてください。

各種受付・利用時間

	受付時間	利用時間
貸出・返却	平日 9:00~閉館15分前	
	土曜日 9:00~閉館時間	
文献複写	平日 9:00~閉館15分前	9:00~閉館時間
	土曜日 9:00~閉館時間	
予約	平日 9:00~閉館15分前	
書庫内資料請求(*)	平日 9:00~閉館15分前	9:00~閉館時間
	土曜日 9:00~閉館15分前	
入庫	平日 9:00~17:20	9:00~17:30
	土曜日 9:00~閉館30分前	
AV利用	平日 9:00~閉館1時間前	9:00~閉館30分前
	土曜日 9:00~閉館1時間前	
グループ閲覧室	平日 9:00~閉館1時間前	9:00~閉館30分前
	土曜日 9:00~閉館1時間前	
カラーコピー CD-ROM	平日 9:00~17:30	
	土曜日 9:00~閉館時間	
レファレンス	平日 9:00~17:30	
	土曜日 9:00~閉館時間	

(*) 聞光館書庫利用は「書庫」の案内をご覧ください。

購入希望図書

卒論やレポートの参考資料など、図書館で購入して欲しい資料がある場合は購入希望を受け付けています。図書館ホームページまたは申込用紙に記入してお申込みください。

文献複写(コピー)

図書館や学科コモンズの資料は著作権法第31条に定める範囲内での複写が可能です。所定の用紙で申込みの上、館内のコイン式コピー機をご利用ください。

* ノートや個人の持込み資料はコピーできません。

グループ閲覧室(2・3階)

2~10人で学習・研究活動をすることを目的にした小閲覧室です。

▶ 利用時間

	受付時間	利用時間
平日	9:00~閉館時間1時間前	9:00~閉館時間30分前
土曜日		

* 利用日1週間前からグループ閲覧室の予約ができます。

アクティブラーニングスペース(1階)

グループワークの取り組みができるスペースです。可動式の机・椅子を自由に組み合わせ、話し合いができます。パソコンにモニターを繋げ、情報を共有するなど、様々な利用ができます。

AV資料の利用

AVルームでは、図書館が所蔵するDVDやビデオテープの利用が出来ます。

* 個人の資料の持込みはできません

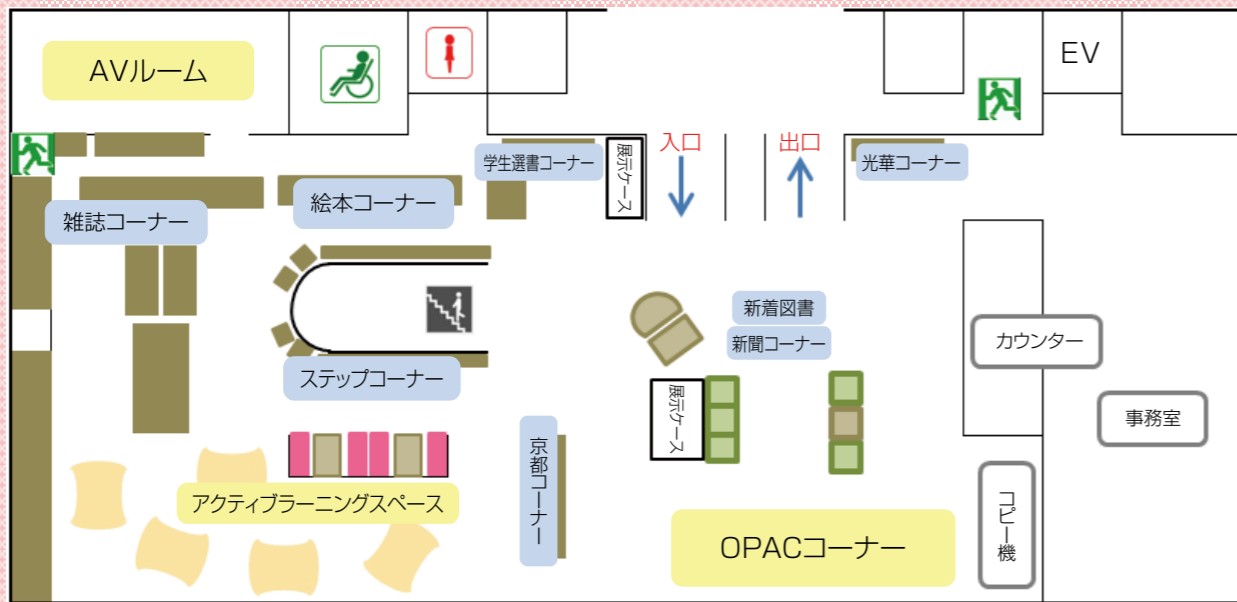
▶ 利用時間

	受付時間	利用時間
平日	9:00~閉館時間1時間前	9:00~閉館時間30分前
土曜日		

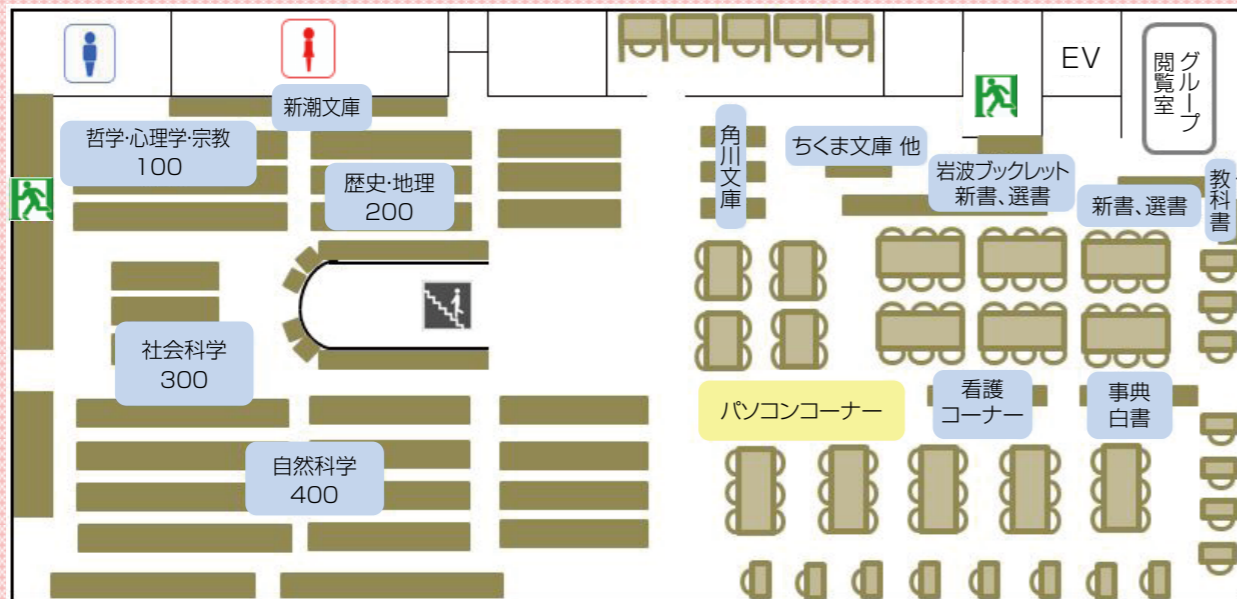
* 利用日1週間前からAV資料の予約ができます。

フロア案内

1階閲覧室



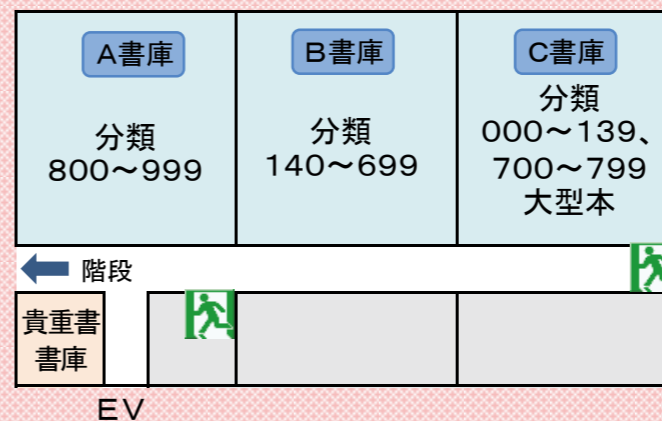
2階閲覧室



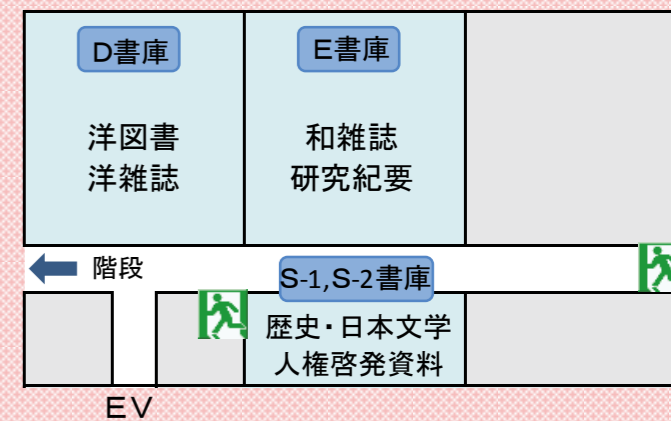
3階閲覧室



書庫(地下1階)



書庫(地下2階)



カウンター 資料の貸出・返却や文献複写、レファレンス等の受付を行っています。



展示ケース 普段は見る事がなかなかできない資料を定期的に紹介しています。(1階閲覧室)



新着図書 図書館に新しく入ってきた資料はこちらに配架されます。(1階閲覧室)



学生選書コーナー 学生の皆さんが書店で選書した資料が配架されています。(1階閲覧室)



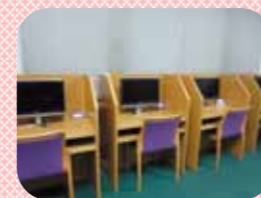
OPACコーナー 資料の検索やレポートの作成に利用できます。印刷時にはID、パスワードが必要です。



コピー機 学内で所蔵している資料のみ複写できます。申込みが必要です。(1階閲覧室)



AVルーム 図書館に所蔵する視聴覚資料を利用できます。申込みが必要です(1階閲覧室)



雑誌コーナー 約 250 タイトルの和洋雑誌が 50 音順に配架されています。(1階閲覧室)



アクティブラーニングスペース 机・椅子を自由に組み合わせて話し合いのできるスペースです。ソファ席もあります。



グループ閲覧室 2人以上で話し合いをする場合に利用できます。申込みが必要です。(2・3階閲覧室)



看護コーナー 看護図書は看護分類(Nで始まる番号)で別置されています。(2階閲覧室)



書庫 A・B・C書庫(地下1階)、D・E・S書庫(地下2階)には、申込みで入庫することができます。



BOOK

わたしのすすめる1冊

レファレンスサービス

レファレンスカウンターでは利用者の皆さんが図書館を効果的に利用できるような必要な資料や情報を探すアドバイスをします。

▶例えば・・・

- *本学の図書館の利用方法
- *蔵書検索(OPAC)やデータベースの使い方
- *参考図書の見つけ方や資料の集め方
- *文献調査および相互利用など

相互利用サービス

本学に必要な資料がない場合、他大学を利用する事ができます。レファレンスカウンターでご相談ください。

以下の3つのサービスがあります。

- **閲覧**・・・紹介状または所蔵調査の写しを持参して他大学へ行く(本学図書館での手続きが必要です)。
- **複写**・・・コピーを取り寄せる。
- **貸借**・・・他大学から資料を取り寄せる。

*複写料金、送料、交通費などいずれも申込者の実費負担となります。

▶受付時間

	受付時間
平日	9:00~17:30
土曜日	9:00~閉館時間

書庫

図書館の資料は1階~3階の閲覧室のほか、地下1階~2階の書庫や聞光館書庫にもあります。利用方法は2通りあります。

● **カウンターでの請求**

「書庫内請求票」に記入し、カウンターに提出してください。館員が資料を取りに行きます。

▶受付時間

	受付時間(徳風館)	受付時間(聞光館)
平日	9:00~閉館時間15分前	9:00~17:00
土曜日		9:00~13:00

*聞光館書庫の資料は出納に時間がかかります。資料は受付の後日に引渡しとなる場合があります。

● **入庫**

カウンターで利用証を預けて直接、書庫を利用することが出来ます。(学生・教職員のみ)

▶受付時間

	受付時間	利用時間
平日	9:00~17:20	9:00~17:30
土曜日	9:00~閉館時間30分前	9:00~閉館時間15分前

*利用中は貴重品、筆記用具以外の荷物はロッカーに入れていただきます。

*聞光館書庫への入庫はできません(出納のみ)。

蔵書検索 (OPAC)

学内に所蔵する資料を検索するシステムをOPAC(オパック)といいます。蔵書検索は図書館ホームページから利用できます。携帯用OPACもあります。

(<http://minor.koka.ac.jp/mylimedio-ktai/top.do>)



OPAC

マイライブラリ

マイライブラリは個人のページ(ポータルサイト)です。図書館ホームページ、または蔵書検索からID・パスワードを入力しログインします。

▶マイライブラリでは・・・

- *現在借りている資料の確認
- *貸出中の資料の予約
- *借りている資料の貸出延長
- *今まで借りた資料の履歴確認
- ・・・などが利用できます。

*学生以外の方は、図書館での利用申請が必要です。



マイライブラリ

資料の並び方

図書は「日本十進分類法」(NDC)によって分類され、配架されています。図書の背表紙の請求記号ラベルの番号順に左から右へ書架に並んでいます。
*新書、文庫などはシリーズごとに並んでいます。

図書館利用のエチケット

- 資料は大切に扱ってください。
- 返却期限日を守りましょう。
- 借りた資料のまた貸しはしないでください。
- 携帯電話の通話は禁止です。マナーモードに。
- 蓋の付いた飲み物のみ持ち込みができます。
- 食事はできません。
- 貴重品は自己管理してください。

図書館活動

▶ 図書館ホームページ

図書館の各種情報はこちらで提供しています。
(<http://www.koka.ac.jp/toshokan/>)

▶ 図書館広報活動

図書館報「葛野の鐘」年1回発行
「カウンターだより」隔月発行

▶ 図書館フェイスブック

図書館でのイベントやお知らせを随時更新しています。
(<https://www.facebook.com/kyotokoka.toshokan>)



フェイスブック

【お問い合わせ先】京都光華女子大学図書館

☎ 615-0882

京都府京都市右京区西京極葛野町 38

TEL:075-325-5399 FAX:075-325-5446

MAIL:lib@mail.koka.ac.jp

- 「利用案内」は抜き取って保存してください



「博士の愛した数式」

いまにし とある
今西 徹
健康科学部心理学科
(臨床心理学)



小川洋子著
新潮社
2005年刊
2F文庫コーナー

映画やドラマを見て泣いてしまうことはわりとあって、センチメンタルな感情に流されやすい自分を常々恥ずかしく思っているのだが、小説を読んで涙する経験というのはほとんど記憶にない。文字というものは自分のペースで読むことができるし、勢いに流されて感情を揺さぶられるということが少ないからかと思う。ところが「博士の愛した数式」という物語だけは例外で、何が自分のどこにどう触れたのかよくわからなかったが、ともかく心を揺さぶられたという印象が強く残った。

人と人との関係や、人が人として生きるための土台というのは普通、記憶に支えられていると思われる。人が生きるということは、記憶を積み重ねることでもある。

ところがこの物語の「博士」は、新しく経験することは80分しか記憶することができない。家政婦として博士のもとに通う「私」と、その息子ルートは、毎日初対面の人物として博士の前に現れることになる。

記憶を積み重ねることのできない博士の孤独は絶対的なものとも思われるが、にもかかわらず、あるいはそれゆえにこそ、その魂は確かに、美しい輝きを放つ。そこには数学のもつ美しさや、人間の生のこっけいさ、悲しみといった様々な要素が詰まっている。そうしたことをすべてを「私」やルートの目を通して、二人とともに読者は体験することになる。そういう物語として筆者は読んだ、と思う。



「デイヴィッド・コパフィールド」

たなか きよこ
田中 希世子
健康科学部 医療福祉学科 社会福祉専攻
(医療福祉・精神保健福祉)



チャールズ・ディケンズ著
岩波書店
2009年刊
3F文庫コーナー

この作品は、私が社会福祉の道にすすむきっかけを与えてくれた、全5巻におよぶ長編小説です。遠い昔ですが、学生時代、英文講読の授業で取り上げられたのが「デイヴィッド・コパフィールド」です。英語力を高めることを目的として始めた勉強でしたが、いつのまにか作品そのものの魅力にとりつかれ、もっと内容を知りたい...その一心で、辞書片手に、苦労しながら訳したのを、いまでも良く覚えています。

本作品は、デイヴィッドという男性の半生を描いています。穏やかで幸せな幼少時代を送っていたデイヴィッドですが、母の再婚によって一変、荒波のような人生が始まります。ただ、よくある小説のような劇的な変化やお定まりの結末は

ありません。ディケンズ作品の魅力は、主人公はもちろん、主人公とかかわる他の登場人物について丁寧に描かれているところです。人は一人で勝手に生きているのではない、その人を取りまく環境に大きく左右されながら人生の大切な選択をしているのだということが、とても良く分かる作品です。1800年代という、貧困をはじめとした生活問題は自己責任だと考えられていた時代において、豊富な表現力で“人—環境”の関係性を巧みに描くこの作品を読み、人を取り巻く環境の大切さを学びました。かなりの長編ですが、とても読みごたえがあります。まとまったお休みに、ぜひ読んでみてください！



わたしと図書館

卒業生バージョン

「図書館で過ごした日々」

図書館は学びの宝庫です。多種多様な書物が揃っている図書館は私にとって魅力的な場所であり、在学中は授業と授業の空き時間があれば、専ら図書館で過ごしていたような気がします。

主にレポートに関する資料を集める為に利用していましたが、最初は資料探しに手間取りうまくいきませんでした。でも、データベースを利用する方法を学んだり、司書の方々に相談したりする中で、段々自分で必要な資料を集める力を身につけることができました。

また、レポートに関すること以外でも図書館をたくさん利用してきました。私は一人暮らしだったので、図書館で手軽に新聞を読めるというのは大変有難かったです。他にも様々な雑誌やDVDがあり、気分転換するのにもうってつけの場所でした。

いしむら るり
石村 瑠理
人文学部文学科 平成 26 年度卒業



あと図書館の選書ツアーに毎年参加していました。選書ツアーは学生が実際に書店に足を運び、オススメしたい本を選んで図書館に置いてもらうというイベントです。本を選ぶ中で、自分の興味関心がわかったり、また新たに気になる本との出会いがあったり等、様々な発見がありました。選んだ人の個性が出ている選書には、面白い本がたくさんあります。ぜひ学生選書コーナーに足を運んで興味惹かれる本を探してみてください。

最後に、大学時代はたくさん時間があります。自分の専門分野に関する本を読み、知識を深めることは勿論、それ以外にも色々な本を読んでみることをお勧めします。きっと思わぬところで本から得た学びが生かされることと思います。

「図書館と私」

私はレポートを書くために必要な本や興味のある本を読むために大学1回生の頃からよく大学図書館を利用していました。

私が図書館を利用するようになったのは、図書館の方々が国立国会図書館に連れて行ってくれたり、学生が選んで図書館の本を買うという企画に参加したり、ゼミでの図書館ツアーに参加したからです。私は小さいころから本が好きで、図書館ではレポートの参考以外にも個人的に興味のある本や資格の本を読んだりしていました。

私は大学で司書の資格を取得したのですが、司書の資格を取得したいと考えていたのは大学生になってからではなく、中学生のころからでした。それは、私が中学生のころに職場体験をするなら本に携わるお仕事してみたい

など何となく思い、中学校の授業で職場体験を京都光華女子大学図書館でさせていただいたことがきっかけでした。当時は、どのような仕事内容なのかはわかりませんでしたが、お仕事を体験し、図書館の方々と話をし、司書という資格を知り、図書館でお仕事ができるといいなと少し思い始めました。職場体験でのお仕事の内容としては、本を整理したりデータをPCに入力したり本にカバーを張り付けたりと様々なことを体験させていただきました。また、いろいろな本を見せていただきました。

中学生時代に貴重な体験をさせていただいたおかげで、司書の資格取得や本に携わる仕事として図書館員になることを考えるきっかけとなりました。図書館には大学生活でたくさんお世話になりました。ありがとうございます。

こんどう あやか
近藤 絢香
人文学部心理学科 平成 26 年度卒業



雷鳥社 2010.2刊
「波照間の怪しい夜」 椎名誠著

タイトルからして怪しい本です(笑)。リラックスしたいなあと思った時、ぱらぱらめくります。“ペンシル〇〇〇〇”や“ドロンコ少年”といった純真な子供たちや、人生の年輪を刻んだおとなたちの写真とともに綴られたエッセイ。肩の力が抜けるとともに、思わずホロッとします。

椎名誠をご存じでしょうか。エッセイスト、小説家、写真家、映画監督、冒険家などなど、いろんな肩書きを持つひとですが、生ビール“ウグウグ”大好き、自称“肉体労働者”風作家です。沖縄在住の写真家・垂見健吾の写真の楽しめる『波のむこうのかくれ島』『風のかなたのひみつ島』(新潮文庫)や、著者撮影の写真が美しい『につぼん・海風魚旅』1~5(講談社文庫)、そのほか馬鹿馬鹿しいエッセイ『わしらは怪しい探検隊』(角川文庫)『わしらは怪しい雑魚釣り隊』(新潮文庫)などもおすすめです。

[キャリア形成学科 野田泰三先生]

1 キャリア・文学科 and ライフデザイン学科



新入生にすすめる本

中央法規出版 1997.3刊
「あなたは私の手になれますか」 小山内美智子著

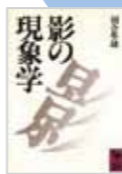
私たちの日々の“生活”について振り返ってみませんか！
著者の小山内美智子さんは生まれつき手足が自由に動かない脳性まひという病気のため様々なケアを受けながら現在も在宅生活を継続されています。病気や障がいをかかえながら“あたりまえの生活、ふつうの生活”をするとはどういうことなのでしょう。在宅看護学では病気や障がいをもちながら在宅で生活している療養者や家族へのケアについて学びます。小山内さんが施設での生活から在宅生活を望んだきっかけは何だったのでしょうか？
また、看護師や介護職への本音のメッセージがあなたのこころに響いてきますよ！

[看護学科 山口豊子先生]

講談社 1987.12刊
「影の現象学」 河合隼雄著

「影の現象学」は心の奥深い所にある普遍的無意識の層にある「影(シャドウ)」についての本である。「影」とは自分自身が選択しなかった生き方を示す半身で、それはしばしば同性の友人に投影される。私たちはある友人の振る舞いや言動がどうしても気になってしまい、訳が分からず戸惑ってしまうような体験をする。「影」の不思議は、私たちが意識の世界より遥かに大きな無意識の世界へと導いてくれる。学生時代、私はこの本に導かれて臨床心理学の道を志したと言っても過言ではない。自分の影であるもう一人の私に出会うためである。そしてこの本を読むたびに道(ゴール)はまだまだ遠いと思ひ知らされている。

[心理学科 徳田仁子先生]



3 心理学科 and こども保育学科



今回『新入生にすすめる本フェア』として、学科の先生方に紹介する本を選んでいただきました。今この時期に読むべき本、学科に関する本などなど、様々な本が図書館1階の展示コーナーを彩りました。先生方の顔写真も合わせて展示したので、「あ、〇〇先生」と言って本を手にする学生さんの姿もありました。紙面の都合上、学科からお一人ずつ先生方が選ばれた本を紹介します。ご協力いただきました先生方、ありがとうございました!!

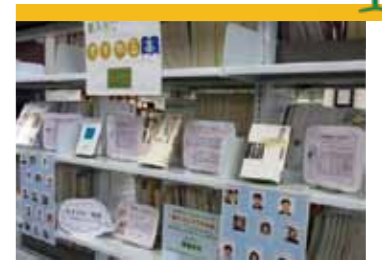
サンクチュアリ出版 2007.7刊
「最後だとわかっていたら」

ノーマ コーネット マレック著 / 佐川睦訳

アメリカ人女性が幼くて無くなったわが子を思って書いた詩ですが、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロの際、犠牲になった消防士の遺作として世界中チェーンメールで駆け巡りNHKなどにも取り上げられました。本当の作者が判明してからも、いつ誰に訪れるかもしれない大切な人達との突然の別れの為に後悔の無い日々を過ごすべきだという内容から多くの人達に読まれテロの追悼式でも正式に読み上げられました。特に訳者である日本人女性が書いたあとがきもきちんと読んでみて下さい。きっと毎日をおしく感じることでしょ。

[ライフデザイン学科 石丸淑子先生]

看護学科 2



講談社 1981.3刊
「窓ぎわのトットちゃん」 黒柳徹子著

今から約 25 年前、皆さんのお母さんが若い頃のベストセラーで、その後もずっと読み継がれている作品です。俳優の黒柳徹子さんが、子どもの頃通った東京のちいさな私立小学校のトモエ学園のことを書いたものです。普通の公立小学校になじめなかったトットちゃん(=黒柳さん)は、実際に生えている木が校門で、6台の電車を教室にしたこの学校を、ひと目見るなり目を輝かせます。面接では、校長先生はトットちゃんに何でも好きなことを話させてくれて、ずっと耳を傾け、終わると頭に優しく手を置いて「これで君は、今日からこの学校の生徒だよ」と言ってくれました。自分で作る時間割、散歩の授業、夏休みに講堂にテントを張ってする「野宿」、お弁当のときに毎日ひとりずつ交替でみんなの輪の中でお話...。トモエは子どもにとって夢のような学校ですが、実は、教育を子どもの方から発想する児童中心主義という考え方が背景にあり、教育史の上からも興味深い学校なのです。でもそれはまた後のこととして、まずは読んで楽しみましょう。

[こども保育学科 北岡宏章先生]



2014 図書館カレンダー 図書館の1年を振り返ってみました。

NEW 図書館にアクティブラーニングスペース誕生

APR

図書館1階にアクティブラーニングスペースが誕生しました!グループで話し合いをしながら勉強できるスペースです。また2階には静かに集中して勉強するための個別ブースを設けました。

NEW Facebook はじめました

JUL

2014年7月からFacebookをはじめました。スタッフが日々の出来事、お知らせなどをアップしています。ぜひチェックしてみてください!!

「生き方探究・チャレンジ体験」

JUL
AUG

中学生図書館でお仕事体験

今年も京都光華中学校と西京極中学校から初々しい中学生のみなさんが職業体験にやってきました。緊張しながらも積極的に一生懸命仕事をしてくれました。



光庵×図書館コラボ企画

JUL
JAN第3弾『スイミー』and
第4弾『バムとケロ』
絵本フェア開催

カフェ光庵と図書館のコラボ企画も2年目。図書館所蔵の本をテーマにして、光庵スタッフがメニューを考案し、販売しています。今年は前期と後期に1回ずつ実施し、図書館内では毎回、テーマ本のフェアを開催しています。

第3弾はレオ・レオニ作『スイミー』をイメージした「爽やかソーダ」、第4弾は島田ゆか作『バムとケロの日曜日』からバムたちが作った「さくさくドーナツ」でした。

「ブック交換」を行いました

OCT

10月21日(火)1講目「図書館サービス概論」の授業のなかで、1階アクティブラーニングスペースを使って

「ブック交換」を行いました。通常「ブック交換」とはテーマに沿って各自が薦める本を持ち寄って発表し、お互いに交換するというものです。これを「光華風」にアレンジして、図書館蔵書から薦める本を選んでもらう方法で行います。



図書館スタッフは近藤先生とともに進行役を務め、今年で2回目。「日ごろ自分が選ばない本と出合えてとても楽しかった」と受講した学生さんからも好評でした。

毎年好評「古本市」第3弾開催 and

『古文書・古典籍』展覧会 開催

Nov

図書館の学園祭イベントとして定着してきた古本市。「常連さん」のお姿も見かけるようになってきたスタッフです。新しくできた1階アクティブラーニングスペースに本を並べ、今年も小さなお子さまからご年配の方まで、100名を超える来場者があり大盛況でした。

準備していた本が思ったより早く売れてゆくの、急ぎよ本の追加を繰り返すという忙しくも活気あふれるイベントとなりました。「『古文書・古典籍』展覧会」については特集ページをご覧ください。

編集後記

図書館報「葛野の鐘」22号をお届けします。ご寄稿いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

いつも表紙の制作には苦勞していたところ、今回初めてライフデザイン学科の井川先生を通じて学生さんにイラスト、デザインを依頼しました。ライフデザイン学科2回生の吉田美友さんの作品です。桜の花びらと、花びら同士の重なりにも様々な本のテーマが描かれています。図書館を素敵に表現してくれました!

この春、図書館も1階はレイアウトが変わり、3階窓際にも個別席が設けられ、リフレッシュしています。ぜひ一度、足をお運びください。

葛野の鐘 第22号

2015年4月発行

京都光華女子大学図書館

京都市右京区西京極葛野町38

TEL (075)325-5399

E-mail: lib@mail.koka.ac.jp

http://www.koka.ac.jp/toshokan/

